

## 平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年1月30日

上場会社名 株式会社 ココカラファイン ホールディングス  
 コード番号 3098 URL <http://www.cocokarafine.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚本 厚志  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 鈴木 芳孝  
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

上場取引所 東

TEL 042-368-8746

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	125,586	—	3,365	—	5,895	—	3,300	—
20年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	165.73	—
20年3月期第3四半期	—	—

(注)当社グループは、平成20年4月1日設立のため、前年同四半期の数字及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第3四半期	80,108	42,220	52.7	2,120.04
20年3月期	—	—	—	—

(参考)自己資本 21年3月期第3四半期 42,220百万円 20年3月期 一百万円

(注)当社グループは、平成20年4月1日設立のため、前期実績及び前期増減率は記載しておりません。

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	50.00	50.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	169,400	—	3,610	—	7,000	—	3,520	—	176.74

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

(注)詳細は3ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
 新規 — 社(社名) ) 除外 — 社(社名) )
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
 (注)詳細は3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの  
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 無  
 ② ①以外の変更 無
- (4) 発行済株式数(普通株式)  
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 19,922,156株 20年3月期 —株  
 ② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 7,384株 20年3月期 —株  
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 19,916,206株 20年3月期第3四半期 —株

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期におけるわが国の経済は、サブプライムローン問題に端を発した世界的な金融不安が急速に広がり、株価下落・企業業績悪化が見られ、景気も後退局面となりました。経済環境の著しい変調の中、小売業におきましても消費低迷が深刻な状況となっております。

当社の属するドラッグストア業界におきましては、オーバーストア現象（商圏下、需要より供給が過剰になるほど店舗数が増加する現象）等による価格競争が激しさを増し、厳しい状況が続いております。また改正薬事法の施行に伴う異業種の本格参入が予想され、M&Aや資本・業務提携等の業界再編が加速される中、生き残りのため企業独自の差異化戦略が必要不可欠になってまいりました。

このような状況下、株式会社セイジョー（以下「セイジョー」という）及びセガミメディクス株式会社（以下「セガミ」という）は平成20年4月1日に経営統合し、株式会社ココカラファインホールディングス（以下「ココカラファインHD」という）を設立いたしました。統合後の活動といたしましては、セイジョー・セガミ両事業会社の仕入部門をココカラファインHDへ一本化した運営を開始し、営業ナレッジ（ノウハウや知識）の共有化・高次元化を進めました。管理部門におきましても、会計システムの統一化を完了したほか、将来に向けての人事関連制度の統一化や次世代に向けた情報システムの高度化に着手するなど、経営管理に係る様々な事項を推進しております。

またセイジョーにおきましては、新たに訪問看護事業へ参画し、調剤事業・介護事業とともに、高齢者をバランスよくサポートできる事業のビジネス化に取り組んでおります。今後地域医療と、当社コア事業であるドラッグストア事業との連携を更に深め、新しい業態を確立するために、平成21年1月、新組織「医療連携推進室」を新設することといたしました。

一方セガミにおきましては、九州エリアにおける店舗ネットワークの拡大・他社との差異化戦略の推進のため、株式会社ドラッグイレブン（以下「イレブン」という）と業務提携を行いました。平成20年11月よりイレブンで取り扱う大半の商品について卸事業を開始し、相互の事業効率化を進めております。

出退店につきましては、消費環境の激変を受けて出店基準の見直しを図り新規37店舗を出店、また21店舗を閉店いたしました結果、当該四半期末の店舗数は以下のとおり642店舗（内調剤取扱113店舗）となりました。

当第3四半期の業績は、個人消費の不振や天候不順の影響を受けましたが、経営統合によるシナジー効果と相俟って、売上高125,586百万円、営業利益3,365百万円、経常利益5,895百万円、四半期純利益3,300百万円となりました。

出退店状況	(単位：店)		
	セイジョー	セガミ	合計
期首店舗数	271	355	626
(内調剤取扱)	(48)	(61)	(109)
出店	13	24	37
(内調剤取扱)	(3)	(4)	(7)
閉店	7	14	21
(内調剤取扱)	(3)	(—)	(3)
第3四半期末店舗数	277	365	642
(内調剤取扱)	(48)	(65)	(113)

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### (1) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期末の総資産は、80,108百万円でしたが、そのうち流動資産は、44,173百万円、固定資産は35,934百万円となりました。これに対する当第3四半期末の負債合計は、37,888百万円でしたが、そのうち流動負債は29,898百万円、固定負債は7,989百万円となりました。

当第3四半期末の純資産は、42,220百万円で、自己資本比率は52.7%となりました。また、1株当たり純資産は2,120円04銭となりました。

なお、当社グループは、当第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度末との対比の記載はしていません。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は10,134百万円となりました。

当第3四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は、961百万円の増加となりました。

これは、税金等調整前四半期純利益が5,285百万円に対して、主な増加要因として非資金費用である減価償却費及びその他の償却費の計上が1,522百万円、仕入債務の増加が3,400百万円あったものの、減少要因として、売上債権の増加が3,881百万円、たな卸資産の増加が1,894百万円、法人税等の支払額が2,738百万円あったこと等によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は、2,250百万円の減少となりました。

これは主として新規出店等による有形固定資産の取得による支出1,627百万円、敷金及び保証金の差入による支出1,099百万円があったものの、増加要因として定期預金の払戻による収入523百万円があったこと等によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は、705百万円の増加となりました。

これは主として、短期借入金の増加における1,400百万円の収入があったものの、減少要因として配当金の支払額674百万円等があったこと等によるものであります。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

サブプライムローン問題に端を発した世界的な金融不安が急速に広がり、株価下落・企業業績悪化が見られ、景気も後退局面となりました。経済環境の著しい変調の中、小売業におきましても消費低迷が深刻な状況となっております。

このような状況下、当社グループの第3四半期の動向から、未達分を第4四半期で挽回することは難しいと判断し、また更なる消費マインドの冷え込みが一層厳しさを増していくことも視野に入れ、連結及び個別ともに1月30日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、前回予想を変更いたします。

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

#### 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、見積実効税率を使用できない場合には、税引前四半期純利益に法定実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更 : 無

5. 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間末  
 (平成20年12月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	10,158
売掛金	7,090
商品	21,570
その他	5,363
貸倒引当金	△7
流動資産合計	44,173
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	7,758
土地	8,955
その他(純額)	1,524
有形固定資産合計	18,239
無形固定資産	
のれん	405
その他	1,219
無形固定資産合計	1,625
投資その他の資産	
敷金及び保証金	13,715
その他	2,550
貸倒引当金	△195
投資その他の資産合計	16,070
固定資産合計	35,934
資産合計	80,108

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間末  
(平成20年12月31日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	20,860
短期借入金	2,600
1年内償還予定の社債	120
未払法人税等	875
賞与引当金	326
ポイント引当金	774
その他	4,342
流動負債合計	29,898
固定負債	
退職給付引当金	2,306
負ののれん	4,959
その他	722
固定負債合計	7,989
負債合計	37,888
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,000
資本剰余金	24,980
利益剰余金	16,174
自己株式	△13
株主資本合計	42,141
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	78
評価・換算差額等合計	78
純資産合計	42,220
負債純資産合計	80,108

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	125,586
売上原価	90,463
売上総利益	35,123
販売費及び一般管理費	31,757
営業利益	3,365
営業外収益	
負ののれん償却額	875
その他	1,784
営業外収益合計	2,659
営業外費用	
上場関連費用	25
その他	102
営業外費用合計	128
経常利益	5,895
特別利益	
貸倒引当金戻入額	0
ゴルフ会員権売却益	0
特別利益合計	1
特別損失	
固定資産除却損	84
店舗閉鎖損失	50
賃貸借契約解約損	74
減損損失	327
過年度ポイント引当金繰入額	63
その他	10
特別損失合計	611
税金等調整前四半期純利益	5,285
法人税等	1,984
四半期純利益	3,300

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間  
(自平成20年4月1日  
至平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	5,285
減価償却費及びその他の償却費	1,522
減損損失	327
のれん及び負ののれん償却額	△812
引当金の増減額(△は減少)	△335
受取利息及び受取配当金	△48
支払利息	18
固定資産受贈益	△186
固定資産除却損	84
店舗閉鎖損失及び賃貸借契約解約損	125
売上債権の増減額(△は増加)	△3,881
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,894
仕入債務の増減額(△は減少)	3,400
その他	86
小計	3,693
利息及び配当金の受取額	23
利息の支払額	△16
法人税等の支払額	△2,738
営業活動によるキャッシュ・フロー	961
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△23
定期預金の払戻による収入	523
有形固定資産の取得による支出	△1,627
敷金及び保証金の差入による支出	△1,099
敷金及び保証金の回収による収入	349
その他	△373
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,250
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,400
社債の償還による支出	△20
配当金の支払額	△674
財務活動によるキャッシュ・フロー	705
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△583
現金及び現金同等物の期首残高	3,097
株式移転による現金及び現金同等物の増加額	7,620
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,134

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前期末残高	3,958	4,315	13,547	△0	21,820
当第3四半期末までの変動額					
株式移転による変動額	△2,958	20,665			17,707
剰余金の配当			△673		△673
四半期純利益			3,300		3,300
自己株式の取得				△12	△12
当第3四半期末までの変動額合計	△2,958	20,665	2,627	△12	20,321
当第3四半期末残高	1,000	24,980	16,174	△13	42,141

(注) 株式会社ココカラファイン ホールディングスは、平成20年4月1日付けで株式会社セイジョーとセガミメディアクス株式会社の共同持株会社として設立しております。

なお、当第3四半期連結財務諸表は、完全子会社となった株式会社セイジョーの財務諸表を引き継ぎ、期首に設立したものとみなして作成しております。